

日本の石橋を守る会 会長 橋本 幸一 事務局 〒869-4302 熊本県八代市東陽町北 98-2 八代市東陽石匠館内
TEL.0965-65-2700 メール koho@ishibashi-mamorukai.jp ホームページ http://www.ishibashi-mamorukai.jp



「通潤橋」 国宝に

熊本・山都町の石造水路橋「通潤橋」が9月25日、国宝に指定されました。国の文化審議会は「技術的完成度の極めて高い、近世石橋の傑作」「地域社会が主体となった資本整備の代表事例」と評価。橋本体と現場監督小屋、石碑2基、通水管の試作品、関係の古文書2点も国宝に指定されました。橋など土木建造物の国宝指定は全国初となりました。

国宝指定への報道以来、観光客が増えた通潤橋
=2023年7月 写真提供/中村まさあき

(次面に続く)

通潤橋を次世代に引き継ぐ責務

石山信次郎【熊本】 町民にとって心の支えでもある通潤橋が国宝に指定されることになり、大変な榮譽を感じています。皆で祝意を形にしたいと思い、横断幕や小旗を作って通りに掲げました。長年、橋の保存活用・維持管理に努力してこられた通潤地区土地改良区の方々をはじめ、関係者の努力の賜と思われまます。私たちも通潤橋を次世代に引き継ぐ責務があります。

通潤橋は江戸時代の1854(安政元)年に架設され、これまで170年近くにわたり、水の乏しい白糸台地に水を送り続け、今も人々の暮らしと産業を支えています。

約6km離れた笹原川から取水する総延長約42km(支線水路を含む)の通潤用水(上井手)を渡すために通潤橋は建設されました。橋長は78m、橋幅6.6m、高

さ21.3m、径間28.1m。近世最大級の石造アーチ水路橋といわれます。

同橋が実現できた背景には、橋面より高い台地に通水管を通った水を吹き上げさせるサイホンの仕組みを考えた惣庄屋(広域自治体の長)布田保之助と、熊本城の石垣を参考に重量のある巨大橋を安定させる鞘石垣を考案した肥後の石工の存在がありました。

「国宝に」の報道以来、観光客が増加し、通潤橋は地元にとってこれまで以上に大きな存在となりました。皆さんもぜひ見に来ていただき、先人の地域振興への思いと石工の卓越した技術を感じていただければと思います。(2023年8月6日)



山都町 HP
町長コメント
など



通潤橋
放水カレンダー

埼玉県飯能市でアーチ石橋が見つかる

埼玉県飯能市でアーチ石橋が確認されました。発見者は同市の加藤栄子会員。地元では「明治期に工兵が訓練で架けた」との言い伝えがあります。石橋は苅生川(かろうがわ)に架かり、「(仮称)苅生の石橋」といわれ、橋長約2.5m、橋幅約1m。輪石に不ぞろいな野面石(のづらいし)が使われ、コンクリートで補強されています。

一方、同橋の南東約1km先にある鋼橋の下にもアーチ石橋とみられる旧日之出橋があるものの、近づくことが困難なために石橋であることが確認されていません。

以上の情報2件に加え、同市の石橋供養塔について調べた加藤会員の2つの報告書が本会ウェブサイト「石橋ライブラリー」に保存されました。(広報部)



写真提供/加藤栄子

上は、苅生の石橋の側面。
左は、コンクリートで補強された輪石



本会ウェブサイト
石橋ライブラリー



架設から130年の洗玉眼鏡橋
写真提供/同会

洗玉眼鏡橋が架設130年

福岡県八女市の洗玉眼鏡橋が今年、架設130年を迎え、八女上陽の「ひふみよ橋」を守る会主催で10月21日(土)に記念イベントが開催されます。10時30分頃から同橋で神事や和太鼓演奏。午後は上陽公民館で東陽石匠館館長の上塚寿朗氏の記念講演など。詳しくは「ほたと石橋の館」(Tel.0943-54-2150)まで。(広報部)



ほたと石橋の館



「桑野の掛橋」(嘉麻市指定文化財)
写真提供/福岡県立朝倉高等学校

嘉麻市指定文化財「桑野の掛橋」

福岡県立朝倉高校の史学部が調査した嘉麻市の「幻の石橋」が今年5月2日、「桑野の掛橋」として市指定有形文化財に登録されました。登録までの経過は「日本のいしばし100号」(2022年3月発行)で紹介。毎日新聞(6月6日)によると、同橋は市の行政財産となったようで、今後の活用が期待されます。(広報部)



朝倉高校
史学部サイト

第44回大会を鹿児島県鹿屋市で開催



1904(明治37)年架設の「大園橋」(市指定文化財)
写真提供/中村まさあき

第44回大会が今年5月20日・21日に鹿児島県鹿屋市で開催され、総会・現地見学会・意見交換会・記念講演が行われました。参加者は大隅史談会の方々の案内で撤去を免れた「大園橋」(市指定文化財)や、石橋と同じ赤い荒平石(あらひら

いし)が使用された邸宅の石垣などを訪れました。一般の聴講を受け付けた記念講演会には約100人が参加。木原安妹子氏の基調講演「おばあちゃんの大好きな石橋たち!!」に続き、軸丸英顕事務局長、八女上陽の「ひふみよ橋」を守る会の小井手恒則事務局長、種山石工技術継承者の荒木大人氏、大隅史談会理事の小手川清隆氏が登壇しました。

本会の交流サイト(SNS)「チームルーム」から記念講演会の動画が視聴できます。登録がまだの会員は右のQRコードのアクセス先で登録手続き後、「何でも掲示板」の本年7月7日の欄からアクセスを。(広報部)



線状降水帯の発生で大分と愛媛の石橋が被災

発達した雨雲が同じ場所を移動・停滞して大雨をもたらす「線状降水帯」。今年7月は全国各地で水害や土砂災害を引き起こし、九州や四国の石橋が被災しました。

大分県では山国川に架かる耶馬溪橋(やばけいばし、中津市)が豪雨により、高欄の半分以上が流失した被害に見舞われました。同橋は1923(大正12)年に架設された国内最長(116m)の8連アーチ



高欄の半分以上が流失した耶馬溪橋
写真提供/中村まさあき

石橋で、2022年に国の重要文化財に指定されました。2012年の九州北部豪雨の際も高欄の一部が損壊し、その後に復旧工事が行われました。

なお、上流部に架かる馬溪橋と羅漢橋は大きな被災を免れました。

(次面に続く)



耶馬溪橋の路面は全面通行止めが続く
2023年9月



被災直後の龍泰寺の太鼓橋
写真提供/龍泰寺

四国では愛媛県松山市御幸の龍泰寺門前の石橋(龍泰寺の太鼓橋)が豪雨により被災し、同寺の住職から本会に相談のメールがありました。技術部の尾上一哉部長(熊本)が現地を訪れ、被災状況を確認、報告書をまとめました。

同橋の橋長は7.0m、橋幅1.8m、径間3.4m。創建は1698(元禄11)年ごろで、



輪石は1本の石材
写真提供/尾上一哉(報告書より)

アーチは真円で下半分が河床に埋まっているとの伝承が寺に残っています。輪石の列は1本の石材(花崗岩)で構成されている点などが特徴的です。

報告書は本会「チームルーム」(何でも掲示板の本年7月20日)からダウンロード可能です。(広報部)



肥後種山石工技術継承者 竹部光春氏が逝去

尾上一哉【熊本】2011年から石工養成講座でご指導いただいた、竹部光春師匠(90歳)が8月に逝去されました。熊本県の霊台橋保存修理工事(1978~80年)や鹿児島市の西田橋移設復元工事(1995~99年)で石工頭を務められ、その高い技術と道を伝授いただきました。種山石工の祖・林七から数えて8代目の弟子を輩出された英霊の功績に深甚の感謝を捧げ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



石工養成講座開講式であいさつする竹部光春氏=2011年
写真提供/中村まさあき



故・森野秀三氏の写真集を実兄が刊行

2017(平成29)年に58歳で亡くなった森野秀三会員の実兄・雄二郎氏が、残された写真の中から滋賀県の石橋や石造トンネル(マンポ)を中心に編集し、写真集(自費出版、全175ページ)を4月に発行されました。アマゾンブックストアが書店注文で入手可能です。(広報部)



滋賀の石橋とマンポ ~石造りの橋と隧道・地下水路トンネルめぐり~
森野秀三著・森野雄二郎編、サンライズ出版 2,420円(税込み)